MedPeer

Press Release

医師 3,000 人超の調査結果を多数掲載中です
https://www.facebook.com/medpeer

2014年4月22日
メドピア株式会社

「子宮頸がんワクチンの接種」について
半数以上が接種すべきと考えている

医師約66,000人以上が参加する医師専用サイト「MedPeer」（メドピア、https://medpeer.jp/）を運営するメドピア株式会社<東京都渋谷区、代表 石見陽（医師）>は、会員医師を対象に「子宮頸がんワクチンの接種」についてのアンケートを実施し、以下のとおり、結果を取りまとめました。

医師専門サイトMedPeer調査結果：「子宮頸がんワクチンの接種」について（総回答：3,463人）

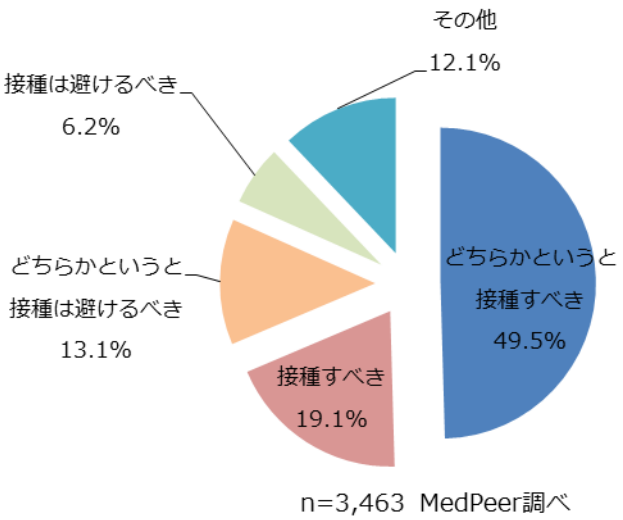
順位	回答	回答数（人）	占有率
1	どちらかというと接種すべき	1,716	49.5%
2	接種すべき	660	19.1%
3	どちらかというと接種は避けるべき	453	13.1%
4	接種は避けるべき	215	6.2%
5	その他	419	12.1%
-	合計	3,463	100.0%

サマリー：

- 医師専門サイトMedPeer（メドピア）に登録する医師（66,000人以上）を対象に**「子宮頸がんワクチンの接種についてどうお考えですか」**という質問をしたところ、**3,463**件の回答が寄せられた。
- 「どちらかというと接種すべき」が最も多く、49.5%を占めた。「重篤な副作用はどの薬剤でも起こりうる」「十分説明の上接種はすすめるべき」「任意接種にすればいい」という声がある。
- 「接種すべき」は19.1%。「癌の発症が防げるなら恩恵の方が圧倒的に大きい」「子宮頸癌発症のリスクを考慮すると接種すべき」といった意見がみられた。
- 「どちらかというと接種は避けるべき」は13.1%。「副作用についての評価が定まるまで待ちたい」「子宮癌検診の受診率を上げる方が先決」といったコメントがあった。

■　産婦人科医だけを集計してみると、「接種すべき」が42%、「どちらかいうと接種すべき」が46%という結果となり、回答者全体に比べると、接種に前向きな意見が多かった。

▼総合結果



n=3,463　MedPeer調べ

回答コメント（回答一部を抜粋）

「どちらかというと接種すべき」　1,716件

・長期的な視野に立ってみれば、やはり接種は必要ではないかと考えます。（40代、麻酔科）
・接種対象年齢の問題は残りますが、摂取すべきだろうと考えます。（40代、一般内科）
・有効性が明らかだから。そのうえで安全性を改善していくべき。接種は任意がよいだろう。（50代、一般外科）
・今報告されている重篤な副作用がどこまでワクチン自体によるものなのかが明確にされていないので何とも言えませんが、予防効果があるものであり、接種はすべきかと思います。(40代、一般外科)
・期待される効果と予測しうる副作用とを説明し、個人個人に判断してもらうのがよいと思います。（40代、神経内科）
・接種すれば絶対大丈夫というわけではなく、おすすめ程度とおもいます。（40代、麻酔科）
・副作用は残念ですが、たいていの方は難なく摂取できているので、国家的かつ公衆衛生的観点からは摂取すべきと思います。ただし、副作用被害の救済も充実させる必要があります。（40代、一般内科）
・史上初のがん予防ワクチンというふれこみは良いが、効果は限定的なため、コストパフォーマンスを考えて使用すべきと考える。（60代、産婦人科）
・子宮頸がんで亡くなる方の人数を考えれば、接種を勧めます。（30代、皮膚科）
・接種だけでは子宮頸がんを100%の予防できないので、検診の重要性を説くことも必要。（50代、小児科）

「接種すべき」　660件

・日本以外の先進国では何年も前から接種率が高く、頸がんの発生率が劇的に減っているから。（30代、産婦人科）
・リスク・ベネフィット的には圧倒的にベネフィットが勝っています。（30代、産婦人科）
・安全性は確立されていると考えられる。（ごく少数の）個別の有害事象を問題にして予防を望む人の利益を取り上げてし

まってはいけない。(50代、消化器外科)
・毎年亡くなっていく3000人近い若い女性を救わなければいけない。(50代、脳神経外科)
・癌予防が可能な唯一のワクチンです。接種はすべきでしょう。接種しないのであればしっかりと癌検診を受けていただきたいです。(30代、産婦人科)
・統計上、副作用の頻度は極めて低く、有益性のほうが高いと考えられ、また副作用の因果関係もはっきりしないので、十分に説明を行い、接種したほうがいいと思います。(60代、産婦人科)
・子宮癌検診の上昇が期待できない現状では、子宮頸癌を減少させるためにはワクチンを接種せざるを得ない。(40代、産婦人科)
・医療行為には常に一定の危険は伴います。予防接種も同じで、希なリスクに怯むべきでは無いでしょう。(50代、代謝・内分泌科)
・頸がん患者の大変な治療を見ていれば自ずと答えは見えてくる。(50代、放射線腫瘍科)

「どちらかというと接種は避けるべき」　453件
・重大な副反応について、十分な検証がなされていないと考えます。(40代、皮膚科)
・もっと有用なワクチンが開発されるまで待っても良いのでは。(50代、泌尿器科)
・まだ効果と副作用について確定できていないので、希望者に限るべきだと思います。(60代、形成外科)
・国内での安全性が保証されない限り、やめた方がいいと思います。(30代、精神科)
・以前はすべきと考えていたが、最近報道されている痛み、下肢の麻痺様の副反応を見ると、子供にはもうしばらく様子を見てから接種させたいと感じている。(40代、消化器内科)
・副反応のことがもっと解明されてから、接種すべきです。勿論、現状でも接種してほしいという人には、リスクを説明した上で接種することになるでしょう。(50代、消化器内科)
・予防のための知識の啓蒙に力を入れたほうが良いと思います。ワクチンですべての子宮頸がんが予防できるわけでもないですし。(40代、一般内科)

「接種は避けるべき」　215件
・重大な副反応を目にしているので個人的にはすすめません（30代、神経内科）
・副作用の検証がまだ十分になされていない段階なので現段階では避けるべきと思う。(50代、一般外科)
・日本においてどれだけの人が恩恵を受けるのか、知らないので、軽々しくいえませんが、少なくともわれわれ医療者に対するアナウンスが少なすぎて判断に迷います。(40代、乳腺・内分泌外科)
・少ない確立でも、重篤な副作用が出ている以上、施行すべきではないと考える。(50代、一般内科)
・麻疹や風疹のように不特定多数に影響を与えるわけではないので、副反応の少ない日本人にあったワクチンができてから推奨すればよいと思います。(40代、消化器内科)

「その他」　419件
・癌を予防できるので接種したほうがいいかとは思いますが、100%予防できず、検診を受け続ける必要があるので考えますね。(50代、一般外科)
・メリットと副作用などデメリットを説明したうえで、患者が選択するべきだと思います。(40代、精神科)
・まずは社会的理解がある程度得られるように、疑念をしっかり科学的に払拭することが第一。その後、男子にも摂取することも含めて議論すべきでしょう。(50代、産婦人科)

MedPeer

※**調査方法**

□**期間：**

2014年3月14日（金） ～ 2014年3月20日（木）

□**有効回答：**

3,463人（回答者はすべて、医師専門サイトMedPeerに会員登録をする医師）

□**設問：**

医師専用サイト MedPeer内の「ポスティング調査」コーナーにおいて、MedPeer事務局（運営：メドピア株式会社）より、以下の質問を投げかけました。

調査フォーム（設問文 抜粋）

子宮頸（けい）がんワクチンの接種後に、長期的な痛み等の副反応を訴える人が相次いだため、現在国内では、ワクチン接種の推奨を中止しています。

しかしその一方で、世界保健機関（WHO）は、「安全性を再確認した」とする報告をまとめたと発表しています。
ただし、質の高い監視を継続する必要があるとの見方も示しています。

朝日新聞デジタル
子宮頸がんワクチン「安全性を再確認」 ＷＨＯが報告（2014年2月18日）
http://www.asahi.com/articles/ASG2H56HWG2HULBJ004.html

皆さまは、現時点における、子宮頸がんワクチンの接種についてどうお考えですか。以下の選択肢から当てはまるものをご選択いただき、その理由についてコメント欄にご記入ください。

1. 接種すべき
2. どちらかというと接種すべき
3. どちらかというと接種は避けるべき
4. 接種は避けるべき
5. その他

【本件に関するお問い合わせ先】
メドピア株式会社　管理部　TEL：03-6805-0345　/ e-Mail：info@medpeer.co.jp

【記事掲載に際してのお願い】

・「医師専用サイト MedPeer 調べ」、であることの明記をお願い致します。
・web 上での引用に際しましては、https://medpeer.jp へのリンクをお願い致します。

MedPeer

■MedPeer（メドピア）とは　- 2014年3月末日時点 -

MedPeer は、メドピア株式会社が運営する、医師専用のインターネットサイトです（URL: https://medpeer.jp/）。会員医師同士による情報共有サービス「薬剤評価掲示板」や、特定疾患治療に関するエキスパート医師による情報提供「Meet the Experts (MTE)」、有名臨床指定病院の所属医師参加のオンライン症例検討会「インタラクティブ・ケース・カンファレンス」などを MedPeer 上に設け、”臨床の決め手がみつかるサイト”として、多くの医師に利用されています。現在の会員は 66,000 人以上で、日本の医師の約 4 人に 1 人が利用するサービスです。また、「薬剤評価掲示板」では、約 2,000 の医療用医薬品に対して、29 万件以上の医師会員による処方実感、クチコミ評価が投稿されています。

以上